21　　浅はかな知恵 　文法　否定形①　単純否定

①有　執　　　入　城　門　者。初メ ニ 執㆑ルニ 之ヲ、不㆑ 可㆑ベカラ 入ル。横ニ 執㆑ルモ 之ヲ、㋐亦　不㆑ 可㆑カラ 入ル。②計　㆑ 所㆑ 。俄カニシテ 有㆓リ 　 至㆒ル。曰ハク、「③吾　 聖　㆒、㋑但　見㆑ルコト 　多シ　矣。何ゾ　不㆓ルト 以㆑テ ヲ 　 而　入㆒ラ。」④　　而　 。

【原文】

魯　有　執　長　竿　入　城　門　者。初　竪　執　之、不　可　入。横　執　之、亦　不　可　入。計　無　所　出。俄　有　老　父　至。曰、「吾　非　聖　人、但　見　事　多　矣。何　不　以　　　鋸　中　截　而　入。」遂　依　而　截　之。

問一 次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の漢字を書き入れよ。

魯に〔　　　　〕を持って城門に入ろうとする者がいた。しかし、竿を縦や〔　　　〕にしてみたが入ることができなかった。すると〔　　　　〕が現れ、「竿を〔　　〕で切ってはどうか」と言い、竿は切られることになった。

問二 波線部㋐・㋑の読み方を、送り仮名も含めてひらがなで答えよ。（現代仮名遣いでよい。）〈4点×2〉

㋐〔　　　　　　　　　　　〕　㋑〔　　　　　　　　　　　〕

問三　チェック問題　否定形①　単純否定

　⑴　次の表を完成させよ。〈1点×6〉

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| ㆓ ～ ㆒〔セ〕 | | （無・莫・毋・亡）㆒～〔スル（コト）〕 | | （莫・勿・毋・亡）㆒～㆒〔スル（コト）〕 | | （匪）㆓～ ㆒ニ | | 不（弗）㆓～ ㆒〔セ〕 | |
|  |  |  | ～〔する（こと）〕勿かれ | ～（が・は）ない。 |  |  | ～に非ず | ～しない。～でない。 |  |

⑵　次の文を現代語訳せよ。 〈1点×5〉

１　不㆑ 許サ。

２　㆓ 君　子　之　㆒。

３　㆑ 　益。

４　勿㆑カレ 為スコト。

５　未㆑ダ　来ヲ。

1〔　　　　　　　　　　〕　2〔　　　　　　　　　　〕

3〔　　　　　　　　　　〕　4〔　　　　　　　　　　〕

5〔　　　　　　　　　　〕

問四　傍線部①に返り点をつけよ。 〈5点〉

有　執　長　竿　入　城　門　者。

問五　傍線部②とは、どういうことか。最も適当なものを選べ。〈8点〉

ア　計画がうまくいかなかったということ。

イ　作戦が成功しなかったということ。

ウ　考えが浮かばずにいたということ。

エ　手法が合っていなかったということ。

〔　　　〕

問六 傍線部③を現代語訳せよ。 〈8点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問七　傍線部④の行動の説明として最も適当なものを選べ。 〈10点〉

ア　老人と一緒になって、なんとか竿を切ることができた。

イ　老人の言うままに竿を切って、台無しにしてしまった。

ウ　老人が近づいてきて、竿を切ってしまった。

エ　老人に頼んで、竿を上手に切ってもらった。

〔　　　〕

【解答】

問一　長竿　横　老父　鋸

問二　㋐＝また　㋑＝ただ〈4点×2〉

問三　⑴　〈1点×6〉

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| ㆓ ～ ㆒〔セ〕 | | （無・莫・毋・亡）㆒～〔スル（コト）〕 | | （莫・勿・毋・亡）㆒～㆒〔スル（コト）〕 | | （匪）㆓～ ㆒ニ | | 不（弗）㆓～ ㆒〔セ〕 | |
| まだ～しない。 | 未だ～〔せ〕ず | ～してはいけない。 | ～〔する（こと）〕勿かれ | ～（が・は）ない。 | ～〔する（こと・もの）〕無し | ～ではない。 | ～に非ず | ～しない。～でない。 | ～〔せ〕ず |

⑵　１＝許さない　　　２＝君子の道ではない〈1点×5〉

　　　　　３＝利益がない　　４＝してはいけない　５＝まだ来ていない

問四　有㆘ 執㆓ 長　竿㆒ 入㆓ 城　門㆒ 者㆖。〈5点〉

問五　ウ〈8点〉

問六　私は聖人ではないが、〈8点〉

問七　イ〈10点〉

【現代語訳】

　魯の国に長い竿を持って城門に入ろうとした者がいた。はじめ縦に持って入ろうとしたが、入ることができなかった。横にして持ったが、また入ることはできなかった。考えが浮かばずにいた。（すると）急に老人がやってきた。（老父が） 言うことには、「私は聖人ではないが、しかし世の中のことをたくさん見てきた。どうして鋸を使って半分に切って入らないのか。切って入ってはどうか。」と。（そこで）そのまま（老人の）言うことを聞いて竿を切ってしまった。

【書き下し文】

にをりてにらんとするり。めにをるに、るべからず。にをるも、るべからず。づるし。かにしてのるり。はく、「にざるも、だをることし。ぞをてしてらざる。」と。にりてをる。

【補充問題】

問１　「俄」（３行目）、「以」（４行目）の読み方を、送り仮名も含めてひらがなで答えよ。（現代仮名遣いでよい。）

問２　「不可入」（２行目）を書き下せ。

問３　「吾非聖人」（３行目）とあるが、老父は自分自身のことをどのような人物だと考えているか。最も適当なものを選べ。

ア　生まれつきの聖人ではないが、知らないことは何もない卓越した人物。

イ　聖人には見えないが、知識量では聖人に劣ることのない優れた人物。

ウ　聖人ほどではないが、世の中のことに精通している立派な人物。

エ　聖人と比べることはできないが、多くの難問を解決した優秀な人物。

問４　この話はどのような点を愚かなこととしているのか。最も適当なものを選べ。

ア　長い竿を持ったまま、城門から入ろうとした点。

イ　老人が、自分のことを聖人だと説明した点。

ウ　老人が知らないことは何もないと自慢した点。

エ　老人の助言を信じ、竿を切ってしまった点。

【補充問題解答】

問１　俄＝にわかにして　以＝もって

問２　入るべからず

問３　ウ

問４　エ